日大学生新聞
発行所 日本大学学生新聞会
郵便番号160-91 東京都新宿郵便局私書箱642号
TEL (379) 1837
月刊（毎月1日発行）定価1部20円

〈情報センター〉への 模索舎
ミニコミ・パンフ、同人誌等を積極的に集めたいと思います
新宿区新宿2丁目8番地 中江ビル でんわ 352-3668

「三カ年」構想の背景と本質

日大の現状況は、当局の四年化を装った正常化が静かにおし進められている。一部の学部では旧治会を作り、他方では依然入校証を提示するという試験的形体をとりながら、一つの理想的管理体制を模索しているのだ。その根底には「三ヵ年」計画が巧妙にしくまれていることを直視しなければならない。当局は、この構想をもってわれわれをどうしようというのか。聞こえのいい「世界的総合大学」というのはわれわれにとって何なのか。それは端的にいって、われわれを一個の消耗品として扱う機構をより徹底化する以外の何ものでもない。だからゆえに、あくまで精神の対象でしかありえないが、単に「近代化路線粉砕」とスローガン化してかたずけてしまうわけにはいかない。言葉のみのスローガンの闘争手段化を拒否する。この構想は、「われわれの日常生活とどう関連させ結びついていくのか」「現実的な課題としてどう訴えていくのか」そのことを問いつめない限り、闘いは空語化してしまうだろう。

「世界的総合大学」が本意

今後、大学当局は、「従来の悪弊を是正し、教育面の充実強化をめざす」として、教育研究、管理運営、学生指導、大学の将来を中心に二十七項目による三ヵ年計画を明らかにした。その案は本部学部長段階のみで具体化され、学生の前にはいっさい提示せず、詳細な内容の発表に気を使っていることから、58年改善案に続く、今後の日大の全般にわたる方向性を規定するものとしてこの構想の重要さがある。

計画の本質をみる前に、まず最初に、計画のみに終った「五カ年計画」と、吉田体制が成立した五十八年に出した改善案を簡単にさぐってみる必要がある。周知のように改善案では「最少限度の経費をもってより効果を大ならしめる」という標語の経営第一主義を貫き、独占資本に従順に奉仕する人材養成の「人づくり政策」と安上り・高利潤のマスプロ教育を巧妙に結びつけていった。このように吉田体制の成立時には、六十年安保闘争と時を同じくし、五十八年から「文部省私立大学審議会会長」として、時の池田内閣の「人づくり政策」の一役をはたしてきた。吉田の政府との関係は「日本会」や政治献金などによって明白であり、それ以後の確立期も佐藤内閣の大学政策の展開と相等しくしている。

「五カ年計画」は、六三年から六五年の高校ブーム、それに続く大学ブームを機会に「世界的総合大学」の基礎固めをやろうというもので、翌年から「原料資源」の確保として、全国各地に付属・準付属・指定高校を大量に吸収及び新設し、「財源」確保として学生の水増し入学によって学費・寄付金を貯え、さしあたり具体的には土地買収と校舎増築に踏み切ろうというものであった。その結果、今日のマスプロ教育による教育学問の不在といった問題が露呈されてきたことはいうまでもない。しかし、中途にしてこの構想は、自らの土地買収や供与金の不手ぎわによって闘争をひき起こし自己解体の道を歩んだ。

こうした経過を経るにしても、吉田体制の諸々の政策には常に時の流れと政府の教育政策が意識され反映されているため、この構想を語るにも政府の政策の把握ぬきにしては語れない。政府の大学政策は、もちろん政治、経済、社会状況と密接に関係しているが、大学が明確に今日みられる教育、研究の産学協同・軍学協同化の徹底、文部大臣の管理運営権を媒介とした政治的介入のような再編過程にはいったのは、六十年池田内閣の「高度経済成長政策」「国民所得倍増計画」にはじまるといっていいだろう。朝鮮戦争によって資本蓄積の結果をきずいた日本資本主義は、基幹産業部門の鉄鋼、機械、石油などに対する資本と労働力の集中投下や欧米からの技術導入による技術革新によって重化学工業の高度成長を遂げ、それに対応する体系的な科学技術政策と……

……使命」とし、その使命を果たすのにふさわしく大学を再編成するというのである。

大学の目的別多様化

六三年一月、技術者、研究者の絶対的不足にかんがみ、経済審議会は「経済発展における人的能力開発の課題と対策」を答申した。答申では、高級技術者、研究者（ハイタレント・マンパワー）養成の必要性を指摘、それを教育政策の中心課題とすると発表した。それによると、労働力養成を①高級技術者、管理者（三％）②補助的な中級技術者③一般単純労働者……

である。その他大学の設置及び……組、管理運営、学生の厚生補導、入学試験などについて今後の再……成の土台となる構想が出された。これは、天皇制教学体制のもとの「国家の須要」に応じる大学……同じく、しかし全く異なる形体……もとで国家目的に適合する大学……制を求めることであるといえる……

現在の日本資本主義の再編……は、一九六四年から六五年の不……特需景気としての日韓条約締結……産業構造の高度化、労働の強化……た合理化と管理体制を一つの軸……としているが、大学の再編は、……本資本主義の「帝国主義的」再……が進行するなかで、労働技術……と支配イデオロギー注入の要求……

政府・大学の自主規制

学生支配の労務管理化

「使い走り」としてのわれわれ
その存在への根源的問いかけを

孤立した闘い
処分に抗議の看護学生

現在、日大内の大多数の学生が自己規制を繰り返すことによって学校側の意図する没主体的人間になってゆくという状況にあって、日大高等看護学院では、その様な状況を拒否し自らの主体性を取り戻すため卒論撤廃闘争に、そしてそれに伴なう処分撤回闘争に起ち上がった。日大内にあって全く孤立した彼女達の闘いが突きつけたものを、我々全日大生は自らの主体性のもとに再度とらえ返さねばならないだろう。

日大看学における卒論とは、これまでの三年間の教育を集約した形で、すなわち三年間に行なわれてきた大学側の、現代医療社会の要請するような無批判人間養成の最後の段階として存在している。そして、この卒論が日大管理体制における「ふるい」――日大体制＝現代医療体制に甘んじるか、否か――としてあるとの認識から、この卒論を撤廃し真の政治活動の自由を、学院生自らの自治をかちとり、将来的には主体的な看護婦とならんがために彼女達は起ち上ったのである。

「無批判人間」養成の最後の段階としてある卒論に対しては、今……

“統一テーマなし”
「正常化」の担い手
芸術祭

闘争回避が窮地に
当局の弾圧で中止
桜歯祭

我らジプシー

雲烟

日大全共闘支援弁護士の
凄惨なドキュメント！
1608名の逮捕者
田賀秀一著・四六判並製・定価六八〇円
―推―奨―の―言―葉―
好評発売中
本書ご希望の方は、もよりの書店にお申し込み下さい。
新宿区新宿3-43 356-7651(代) 大光社 振替東京54907

変革のための総合誌
情況 11月号 発売中 定価200円
特集・市民社会と階級形成
情況出版＝新宿区戸塚町3-160 鈴木ビル TEL (368) 0770 振替 東京106464

現代の眼
12月特大号・発売中・180円
特集・終末としての現代
東京・京橋3-11 現代評論社 振替東京4419

構造
十二月号・一六〇円
特集 吉本隆明論
マックス・ウェーバーと社会科学的認識の可能性
経済構造社

「在日朝鮮人」山村（梁）政明君焼身自殺の波紋

真に訴えたものは何か

われわれへの激烈なる抗議

去る十月六日の早朝、早稲田大学第二文学部二年の山村政明君(25)が三リットルのガソリンをかぶって焼身自殺をした。現場は第二文学部のキャンパスが見える穴八幡境内の木かげで、誰の目に触れることなくこの世を去った。

彼の死はわれわれには商業紙を通して内容を知るしかなかった。「学園暴力に焼身抗議」「リンチ数回、おびえて」たという見出しで"暴力"として取り上げられた。そして即民青は巧妙にも政治的に彼の死をセクトエゴイズム的に一般学生に訴えかけた。いっぽう"加害者"のレッテルを貼られた革マル派は「山村君の死は日共の闘争能力喪失が招いたもの。日共が彼を死へ追いやったのだ」としてやり返す。彼が生活した早稲田キャンパスでさえ「彼が訴えたもの」は完全に葬り去られ、別の視点での論争に歪められている。彼の死は明らかに在日朝鮮人としての痛烈な生活に疲弊し果てたことと、そのような体制、および日本人一人一人の内的意識に対する抗議であることだけは確かである。そしてそれを問題にするとき、在日朝鮮人と日本人における民族性での政治的死ではあるけれども、われわれがこの死を政治的に解き明かすならば歪曲された内容でしか答えることはできないだろう。

民青系のビラに山村君の「抗議・嘆願書」が載っていた。しかし彼ら民青の"政治"に都合よい文面で掲載されているのだ。その文面は「これは、被植民地支配下の異民族の末えいとして、この国の社会の最底辺で25年間うごめき続けてきた者の」の部分とそのあとの「私の在日朝鮮人二世として……背教を倍増すること以外の何ものでもない」到るまでの内容が消除され、終りの部分のスローガンが全て消されている。一目見れば分るように彼のもっとも重要な個所「在日朝鮮人」関係の文面が消されているのだ。その事実について民青は「両親の許可がおりなかったため」と理由にし、許可が降りたとして十三日にやっと全文記載のビラがまかれた。

そのことに論理的な意図があるにせよないにせよ、この事件を単に"学園暴力"としかとらえない民青路線の姿勢は問われなければなるまい。言えることは彼の死を理解するよう努力したなら、全文記載のない「抗議・嘆願書」などまくことはできないはずである。

また革マル派はその逆の内容で彼の死をとらえ、「在日朝鮮人として彼の運動を包括しきれない日共の政治の破産が招いたもの」として大衆宣伝に悟ろしている。

そして彼のいたクラスでは連日クラス討論が行なわれ「民族的なものが失意を招いたその結果」が重要な要素としてあるとしている。いずれにせよ動機の所をしぼるのはあまりにも苛酷であり、不正確な解釈としか映り得ない。まして政治的レベルでの政争の具と化しては、本質の矮小であるだろうし、彼の死の意味するものでは断じてない。

マスコミは"テロ・リンチ"におびえていた""内ゲバの犠牲者""的発想のもとに、彼の真の苦しみ、在日朝鮮人問題から焦点をぼかしている。また新左翼総体の動きとしては「安保から入管へ」というレベルでの闘争の組み方を行なってきた。しかし具体的な行動方針まで踏み込んでいる現在ではあるがすべて政治的領域での問題の解決に今、一度問い返すことの必要がせまっているといえる。

二十六年六月梁一家は韓国籍から日本に帰化し山村と改名した。その国籍自由の喜びは、逆に「日本人でなければ朝鮮人でもない」彼の苦悩の生活の幕開けとなっている。それは、民族としての日本人からの排外される立場としてあったことと、祖国朝鮮に対する裏切りの後悔を持つ結果となったのである。しかしながらひたむきに日本人になり切ろうとした彼は、多くの日本人に拒否され、差別されたのである。そして山村君のその虐げられた苦しみもキリストの愛によって、すべて一掃できるとして信教の道へ進んだ。彼の必死なまでのキリストに対する追求が、自ら背教者にならざるを得ない現実に悩み苦しみ、生命の灯を消す結果となった。

差別の主体者であるわれわれは終始在日アジア人を抑圧しつづけている。「……一九四〇年二月朝鮮全羅南道木浦で反物屋をやっていた尹宗洙氏は、各部から人狩りで集められた同胞約千名とともに木浦警察署の武道館に集結し、日本軍を満州におくった帰りの貨物船で木浦港から富山県伏木港に上陸、汽車で日立鉱山に連行された。そして朝五時から夕方暗くまでもっとも辛い坑内労働の奴隷生活が始まった」……（朝鮮時報六四年二月八日号「在日朝鮮人のあしあと」より抜粋）

このような強制労働、そして虐殺に到るまでの実体が現実にあったこと。その弾圧史は、われわれが主体者であることを認識しなければならない。そして現在では朝鮮高校生暴行事件から政治的には入管行政に至るまでの抑圧を生の目で見ている。それも主体者として。

その内なる差別が、在日朝鮮人60万人を苦しめていることは明白で、それが山村君を死まで追いつめた所以でもある。

われわれには彼の死を理解することは困難である。分かることは浅いレベルでの「苦学生の彼、貧しい生活に疲れていた」解釈。しかし、深いレベルではわれわれには知る由もない。しかし彼が日常に考えたこと、死の直前に考えたことを、われわれは不断に「分かろう」という努力を持たなければならない。彼を解かろうとするレベルが少なからず彼に一歩近ずくことになるだろう。

朝鮮や中国の問題を避ければ避けるほど本質から遠ざかる（写真は連行される朝鮮人）

政治的解決から脱却を　わい小な民青、革マルの論争

ルポ

十月十五日、山村君焼身自殺から一週間を経た早大構内は山村君問題に関する日共、革マルの立て看板が乱立する。日共が拠点にしている校舎からは壊れたレコードのように「暴力を学園から追放せよ」とアジが繰り返され、早大構内中を響かせている。ほぼ十メートル間隔でビラが配られ、正門から裏門へ抜けるだけで、同質のものを含めると十枚から二十枚のビラが手に入る。例のごとく革マルのビラには「死体に群がるハイエナの如き、日共＝民青を告発する」「根も葉もない"革マル派の暴力支配"説をデッチ上げ"反トロ"策動に狂奔する日共＝民青を許すな」と書かれていればその日共＝民青のビラは「山村君を死においつめた元凶はこれだ！革マルの全く悪劣卑怯な暴力の実体！」「革マルの暴力糾弾！暴力団的当局糾弾！」とビラの形式こそ違え、内容はほとんどその二つに分かれている。

同一時ごろ文学部正門前で五十人ほどの人だかりがあり、激しい論争が行なわれている。聞けばいつもの日共、革マルの激論である。「てめえらの暴力がな、山村君を死に追い込んだのだ」「うるせえ、抗議・嘆願書の闘争能力喪失。背教者ってえのはてめえらのことだ……」「あれは彼がクリスチャンだった……」「バカヤロウ、全て合理化しやがって」との論争が繰り返し繰り返し時には罵声をつかみ合い、また時には手打ちの応酬まで交えながら山巻まで続けられた。山村君が自殺を試みた穴八幡神社には人影もなく、木のかげからくっきりと山村君が通った文学部校舎が見える。

同五時から民青系学生の呼びかけによる「山村君『学生葬』」が当所二文キャンパスで開かれる予定がいわゆる"革マルの暴力"によって本部前に移された。約八百人が集まる。

翌十六日、再び早大構内をおとずれると、山村君関係の立て看は一掃され「十・二一八、佐藤訪米阻止闘争に決起せよ」「十・二一国際反戦デーに起て」などが並べられてあった。この日は革マル派の総決起集会で約百五十人が集会・デモを行ない、デモの途中で民青の立て看を破り、二・三枚の大きな立て看を持ち去っていった。「いま、暴力集団革マル派がわれわれの立て看をぬすみ、竹竿で同志を突っ突くといった暴挙を行なっていった。すべての早大の学友諸君このような暴力が山村君を……」とどこからとなく民青のアジが流れた。

同二十日、場所を日大に移すと、いつものように学生証を提示し"ガードマンの許可"を受けて通門する。入構を許可され入るところは、暗い案内だ。暗いホールで学生が雑談をするが、常に職員の監視下にある。「昨日の麻雀はひさしぶりに浮いたよ」ぐらいの話しなら職員の目もやさしい。

おそらく日大内にも在日朝鮮人は多数いることだろう。日常的には意識することもなく「日大生」だ。

……の共通性として大学生活を闘い抜いている。しかしその闘いも、権力に向けて闘っているのもあれば自己への闘いを展開しているのもある。また矮小な時点での自己の基礎のない教条的発想をふまえているようだ。政治には教条的発想も必要とされることがあると聞くがそれは常に危険性も伴なっているといえる。

同二十一日、ふたたび早大へ行くそこにはもう山村君が残したものはない。あの激しかった政争の論点は山村君問題から新たなつぎの"もの"へと移行しているようだ。

後日聞いたことだが、山村君の祭の力べにつぎのようなことが落書きされていたそうだ。

万国の被抑圧民族団結せよ！
被抑圧階級団結せよ！
義と公平のすむ新しき地と天をわれは待ち望む。神よ許し賜え

めずらしくもない在日朝鮮人の死、そして何でもない死のイメージが政治レベルでの解決を急ぎ、再びつぎの死を招くことになるのだ。（鈴）

抗議・嘆願書（全文）

とりわけ早大二文当局及び全ての二文学友に訴える。

人騒がせなことをして申訳ありません。

しかし、これは、被植民地支配下の異民族の末えいとして、この国の社会の最底辺で二十五年間うごめき続けてきた者の、現代日本に対するささやかな抗議でもあります。

私は在日朝鮮人二世としてこの国に生を受けた。在日朝鮮人の存在そのものが歴史の非条理だ。その上、自らの意志によらずとはいえ、自民族と祖国を裏切り、日本籍に帰化したことは苦悩を倍増すること以外の何ものでもない。

私は学問、真理の探究を志して、早大に入学した。しかし、そこで見出したものは、反動国家権力・独占資本に迎合した非人間教育でしかなかった。私は何人かの勇気ある仲間たちと共に、学園変革の闘いに参加していった。その為、反動教授の指弾を受け、反民主主義・反革命・暴力学生集団革マルの数度に亘るテロ、リンチ等により、いく度か傷つき学校の自由は奪われ、生活の破算、挫折を余儀なくさせられた。

私と同様に革マルの学園暴力支配により、退学に追いこまれつつある学友は少なからぬ数にのぼる。彼らの多くは、貧しい家庭環境に育ち、血のにじむ努力を積み重ねてこの学園における自己に余る不正、矛盾に抗して立ち上り、闘いを敢行した故に弾圧を受け、学生としての諸権利を抹殺されている彼らの心中は悲憤やるかたないものがある。

死を目前にした私が、最も切実に望むのは次のことである。革マルの暴力支配と、大学当局の冷淡な措置により、経済的困窮の中で留年、退学に追いこまれながらも奮闘を続けている学友たちに明るい光のさすことである。彼らが、暴力支配による身体生命の危険や経済的な生活破算から免かれ、学生としての正当な権利を回復することである。

二文の全ての教職員の方々、及び学生諸君彼らの正当な闘いに理解と支援を与えてほしい。暴力を一掃し、よりよき学園を建設していってほしい。

一、反動的文教政策粉砕！
一、早大は、自民党、独占資本追随の反動的立場を脱し、建学の精神復活せよ！
一、学園から不当な暴力を一掃せよ！
一、反民主々義、反革命、暴力学生集団革マルを自治会執行部からリコールせよ！
一、革マルは反動勢力の手先きとしてのハレンチなテロ、リンチ、詐欺行為、及び、民主的学生運動への介入、破壊作動を、厳重に自己批判し、真の革命勢力の立場、人民大衆の立場に転換、依拠せよ！
一、二文当局は、奨学金、カリキュラム、学生生活全般において、勤労学生の権利拡大を保障せよ。一文への腰かけとしての二文の性格を再考せよ。
一、二文の全学友、及び教職員に訴える。事なかれ主義を脱して、一人一人が不正、矛盾との対決に立ち上って欲しい。昨年の自治会民主化闘争の盛り上りを想起して欲しい。学友諸君が自覚して立ち上り、連帯して闘うことのみが、暴力の一掃、自治会民主化、学園改革への道を開くだろう。
一、日米安保条約廃棄！
一、自民党腐敗政権打倒！
一、米国の極東軍事支配を許すな！
一、日本独占資本のアジア経済侵略を許すな！
一、独占資本解体！ブルジョワ抑圧階級打倒！
一、南北朝鮮の自主的平和的統一実現！
一、在日朝鮮人の民主的民族権利の弾圧を許すな！
一、金嬉老同胞の法廷闘争断固支持！
一、日本軍国主義復活の道を断て！

一九七〇年一〇月五日
早大二文四年生Hクラス
山村政明（梁政明）
六九年五・一九　十一・二五　十二・六　十二・八
学生大会議長　二文旧有志連合代表

どうせ、私の命は、後、長くはない。闘争能力を喪失した私にできることは、これくらいしかない。神よ、背教者の私を許して下さい。

「祖国喪失」

わたくしの体内には
虐げられし異民族の
血が流れている。
この国に
生きることの
耐え難さに
わたくしが
固い決意を
胸にひめて
同胞たちを
尋ねあてた時
彼らの手も
私には冷かった。
ーそう
私はもはや
彼らの仲間でさえ
ありえないのだ。

「ヘルメットの友へ」

君たちの
いちずに思いつめた
顔、顔
時どき美しいような
うらやましいような
気がする
君たちの怒り
君たちの不安
ぼくにも
少しは
分るような
気がする
ーーああ
ぼくは君たちに
何と云って
話しかけたら
いいのだろう？

ー彼が残した詩ー

在日朝鮮人とわれわれの問題

津村喬

もう「入管闘争」とは言えぬ
喪われし歴史の奪回作業を

一つ、日本内部の問題として、沖縄や部落などの差別の問題がとりあげられる。ことに、在日朝鮮人の問題とは、それとは異なる性質の区別すべき問題である。このことを忘れ、認識できない所に日本人の思考の盲点がある。日本が長期にわたって完全に支配した植民地は、台湾、朝鮮であり、しかも一民族、一国家が全一的な支配をうけたのは、朝鮮だけである。そして多くの朝鮮人が日本の侵略戦争にかりだされて、犠牲になった。このような、植民地の人民に対する差別支配と、日本国民の差別支配の差異が問題として明確にされておらず、理論的にもまた自分の身体でしっかりとうけとめていない。日本帝国主義のために、同じように苦しみをうけたとはいっても、まったく同じ苦しみではない」（朝鮮人強制連行の記録より）歴史的な日本民族の朝鮮人への抑圧イメージは神功皇后伝説いらい、えがきつづけてきた。侵略戦争の場でも常に朝鮮半島はその舞台とされ、意識的、無意識的にも抑圧感情の充満と、現在に至っては差別感情の支配が施されている。このような現実の中で、現在のいわゆる"差別"の範囲で、差別糾弾云々という形をもって、単に"差別"の課題（日本人が加害者）という構図か、あるいは入管闘争という政治的レベルでの問題解決、等々に見られる課題を、全て問題解決のあせりでしか表現されていない。山村君焼身自殺は、そのことの問題を朝鮮人の側として提起したにもかかわらず、日本人、とりわけ闘いを構築しているはずの左翼が、本質を葬り去った内容しか彼の死を受けとめられないことを再度問い返さなくてはならない。このことは、即、入管闘争の石礎としては返済されない問題であり、解決をせまる問題であることになる。「朝鮮人強制連行の記録」に「朝鮮の問題や中国の問題を避ければ避けるほど本質から遠ざかることになる。民族問題と帝国主義の問題はうらはらなのである。それと同時にアメリカ帝国主義の対日政策に関する問題もさけられないものであると思う。現在当面している日本民族の最大の問題を追求しなければ過去の問題もわからないであろう」と強く記されている。（編集部）

右翼、マスコミ、権力が一体になった反朝鮮人の排外主義宣伝が、新たにわれわれの周囲をおおいつつある。われわれの日本は、かつて朝鮮、台湾を植民地領有したのみならず、その言語を奪い、その民族としての抹殺をはかった歴史をもつわけだが、戦後二五年をへて、この「民族抹殺し」の思想が、新たな経済大国主義と結びつきつつ、復活拍頭して来た。われわれ日本人がこの「脱亜」のにがい歴史をきちんと総括することなく、それを忘却して安易な二セものの平和と繁栄を追求して来たことの報いが、このようなかたちであらわれて来ているといえるだろう。この春から頁にひん発した、右翼学生の朝鮮人高校生暴行の中では、この「朝鮮人皆殺し」のスローガンが掲げられていた。新右翼勢力の大連合の中で、彼らなりの地域闘争方針が出されたことによって、彼らはナチスばりの、在日朝鮮人虐殺突撃隊へと転身しようとしている。

政府もまた、その出入国管理行政において、排外主義をむきだしにしつつある。在日米国人ロナルド・マクハーに対する、「在日外国人に基本的人権はなく、反戦の意思表示をするなら在留許可できない」という法務大臣の主張は、教団会に提出されようとしている新入管法の先取りとして注目される。在日朝鮮人、中国人の国籍選択の自由にたいする政治的干渉、日本に生活基盤をもつ在日朝鮮人が一時帰国ののち再入国することを許可しないこと、各国留学生にたいする繰返される弾圧、をつら抜いているのはまさしくこの「煮て食おうと焼いて食おうと自由」という思想である。日本帝国主義のアジアへの進出に伴って、解放闘争を戦うアジア人民と日本人民とがいっそうの分離＝敵対を狙ったこうした潮流と行政とに、いま全面的に対決していくことができないとすれば、われわれは侵略者軍隊としてか、あるいは「自警団」としてしか、再びアジア人民、朝鮮人民と出会うことはできないだろう。われわれの「近代」が抜き差しならぬ形で、問われている。

左翼総体に致命的な絶望が

早稲田で一人の在日朝鮮人学生が焼身自殺した。梁政明は姓を山村と変え帰化し、日本人になろうとしてなれず、キリスト者となるも祈れず、変革の途を求めつつ日本の左翼総体に絶望して、死んだ。

「とうとう来るべきものが来ましたね」と私の会った一人の在日朝鮮人は言った。「帰化したことで、朝鮮人同胞からは裏切り者として切られる。ぼくでさえ、君のような日本人と接触しすぎたということで朝鮮人社会から放逐されるかもしれない。そして日本人の中へ入って、誰に話が通じますか……」

ひとりの異邦人の死が、われわれ自身が日常とっている彼らへの態度を凝縮させて照らし出す。民青と革マルは、ともにお前らが殺したのだとキャンペインを行い、特に民青は彼が朝鮮人であることをかくして図々しくも「同志はたおれぬ」などとうたった。この政治の貧、このいやしさに私は死ぬと絶句する。そして彼の周囲では失恋自殺という類型をあてはめ、安心する。この政治状況、この「貧」の中に、われわれは居る。われわれの生活と闘争の「貧」。

孤立無援での梁政明君の死

私はひとりの華僑青年、李知成の、入管法にたいする抗議自殺にうちのめされ、入管闘争の戦線をなんとしてもつくらねばならぬと、早大闘争の中での位置は客観的に言ってそれほど大きなものではなかったが、提起された反大学運動をどうしていくかについては重い責任をもっていた。私はいちおう論理の上で大学解体＝教育解体と在日朝鮮人からの告発の逆流の問題をつなげたところで、その実体化を追求することをせずに、早大闘争から逃げ出した。大ゲサにいえば、反大学の新しい質の定着ができぬままに中核の決戦路線に早大闘争を売り渡した。そして早稲田に、私のいた第一文学部と梁政明のいた第二文学部に、入管闘争の戦線をつくることができなかった。孤立無援で梁政明は死んだ。

入管闘争主体の問題が深化

入管闘争の抽象性、その言葉だけの性格を、梁はあらためて照らしだした。私の参加して来た入管闘争、ささやかな「支援」とカンパニア闘争、この七月以降、政治主義者によって神秘化され制度化された限りではやりものとなり「秋のモード」となって入管闘争ーわれわれにはこの意味では、共同の入管決戦の叫びに、われわれ自身の闘いの戯画を見なければなるまい。

入管闘争が法案の問題ではないこと、したがって、国会日程をめぐっての「決戦」などありえないこと、「決戦」をいうならその主戦場はわれわれ自身の、そして日本民衆総体の日常生活であるということは、朝鮮問題・入管問題を政治主義的でなくうけとめようとする新たな闘争主体にとって、いわば共通の了解事項であった。しかし梁の問題は、それが言葉でいうことはたやすくとも、どれほど困難なことであるかを私に、われわれに教えた。

入管闘争は形式であった。その内容をわれわれはわれわれのイマージュの彼方の在日朝鮮人・中国人におしつけてきた。われわれ自身の内実をもたず、むしろそれを放棄するところに戦線をつくろうとした。在留を一応かちとった劉彩品さんが総括としてわれわれにつきつけたように、闘う在日中国人・朝鮮人がいなければ、われわれは入管闘争をやらないのか、ということである。支援闘争その他を通じて、われわれはまたいつしか、彼らと通じあっているのだという幻想を育てていた。もう「入管闘争」などとも、いいたくない気もする。われわれは何をしてきたのか？李珍宇を救えなかった、梁政明を殺した「プロレタリア国際主義」である。われわれの闘いは逆転し、そして支配階級の攻撃は着々とすすんでいる。われわれはどこへ行くのか？

東大阪市役所占拠闘争、あるいは大阪市役所前でのハンスト（いずれも国籍記載変更を要求しての）が問題にしていたのも、このわれわれの闘いにおける、日本人の、政治と日常生活の分裂のことであった。彼らは「肉体を賭ける」ことで、存在そのものが戦いであることを強いられる在日朝鮮人に接近しようとした。それをも、多くの朝鮮人は嘲笑した。われわれの具体的状況を知らずに、と。そして確かに、われわれの「具体性」からいっても、肉体即生活というわけではない。われわれはここ当分の間、様々の意味をもった嘲笑をあびつつ、ささやかなりともわれわれ自身の喪われた歴史をとりもどしていく仕事を、実践の中でおしすすめるしかないのだろう。「二〇年間放っていた入管体制が、そんなに簡単に何か変ると思いますか」と私の会った朝鮮人青年は言うのである。（つむら・たかし）

全共闘機関紙合同縮刷版

＝全国全共闘運動の理論紙をすべて収録＝

六八・六九年のあの熾烈な闘いは、現在の闘いに何を残したのか？大学には鉄格子の中の静寂が与えられた。二年間の嵐の様なエネルギーが、霧散しようとしている今日、当時学生が何を目的とし、どの様な理論を背景として、あの様な大胆な闘いを権力者に向っていどんだのか。戦後学生運動史の中からは、一切答えの糸口すら見い出すことは出きないであろう。その疑問に答え得るものは、彼等自身の手によって克明に書かれた行動史、「各大学全共闘機関紙」である。それは今日の闘いの現象を単に第三者的な物語としてではなく、まさに生きた実像として提起してくれている。これらの貴重な大学闘争の遺産は、現在に致っては、対権力の問題で、ほとんどが、休刊あるいは廃刊となり、消え去ろうとしていたが一年間にわたる、全国の学生の努力によって、再び混迷する社会に生きる全ての人々に訴えかけているのが本書である。

収録紙　進撃　ストラグル　叛逆　闘う全共闘　文理戦線　戦岩　バリケード　コンテスタシオン　全国全共闘　縮刷判上製￥2000

獄中記

■秋田明大著■

獄中から呼びかける連帯のメッセージ！権力を告発する全人間的闘争の記録！　B6判上製／￥490　残部僅か

発行所　全共社　東京都千代田区神保町1－40 五十嵐ビル　電（294）6493
発売元　ウニタ書舗　東京都千代田区神保町1－52　電（291）5533

三一書房　東京神田駿河台2

□教育の谷間から□　三浦泰生著／三一新書・320円
高校教師に何ができるか

□社会主義を問い直す□　松葉武雄・大森誠人編著／三一新書・320円
反体制労働運動とは何か

□階級の底深く□　石田郁夫著／三一新書・320円
弧状列島の底点から

□三菱長崎造船社研の闘争□　三菱長船社研・籠田若雄ほか著①950円②1200円
新左翼労働運動10年

アナキズム叢書
□叛逆者のことば・相互扶助論□　三浦精一・大沢正道訳／四六判・1200円
クロポトキンI

アナキズム叢書
□アナキズム小史□　上杉聰彦訳／四六判・1200円
ネットラウ

□「思想」の問題と大学変革□　滝沢克己著／四六判・780円
人間の「原点」とは何か

□〈第三世界〉私論□　村瀬春樹著／三一新書・350円
誰か沖縄を知らないか

ドキュメント
□イタイイタイ病を追って□　鎌田慧著／三一新書・350円
隠された公害

□日本映画の精神の系譜をたどる□　佐藤忠男著／四六判・1200円
日本映画思想史